

今年の麦は、11月下旬～1月中旬が高温で経過したため、生育は旺盛で、11月中旬播きでは、平年と比較して10日以上早くなっています(1月中旬現在)。

今後も暖冬傾向が続く場合、播種期によっては早期茎立ちにより凍霜害が発生する恐れがあります。そこで、麦の収量安定のため、下記のような対策を行きましょう。

## 1 排水対策

近年は2～3月にもまとまった雨が降ることが多くなっています。排水対策の良否が収量・品質に直結します。雨の後、ほ場に水が溜まらないよう排水溝を整備し、地表水の排水条件を整えましょう。

## 2 土入れ・踏圧

踏圧は、倒伏防止、早期茎立ち抑制のため、節間伸長開始期（踏圧の晩限：草丈20～25cm程度）までにほ場が乾いてから3～4回実施します。生育が特に旺盛なほ場では、さらに1～2回多く実施します。節間伸長開始期は、播種期により差が大きいので、ほ場の状況を見て判断して下さい。

土入れは、倒伏防止や雑草防除の効果が高いため、3月上旬までに2～3回実施しましょう。

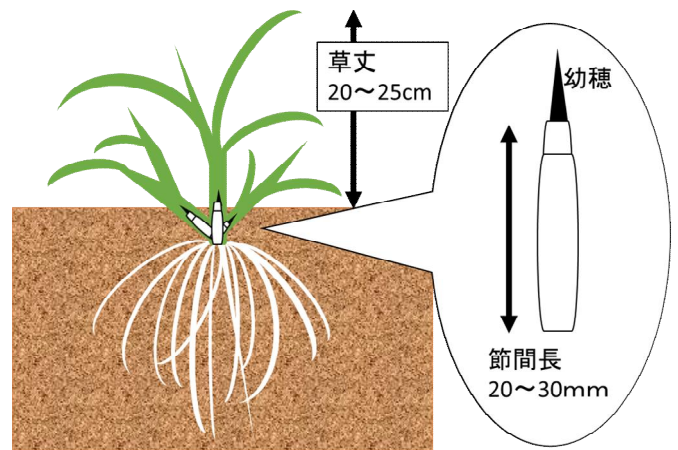


図 茎立ち期（節間伸長開始期）の目安

## 3 雑草防除

### <広葉雑草対策>

雑草の種類に合った薬剤の選択が必要です。麦作こよみを参考に、雑草の種類を見極めて下さい。現在、キンポウゲ類やミチヤナギ等の発生が目立ちます。

除草剤名	使用時期	10a使用量	注意点
ハーモニー75DF 水和剤	節間伸長前まで 目安：2月中旬まで	5～10g	ミチヤナギ・スズメタネウに効果あり カラスノエンドウへの効果劣る
アクチノール乳剤	穂ばらみ期まで 目安：1月中旬～3月上旬	150～200ml	カラスノエンドウに効果高い キンポウゲ類への効果劣る
バサグラン液剤	麦類の生育期 (小麦：収穫45日前まで 大麦等：収穫90日前まで) 目安：1月中旬～3月上旬 大麦等は2月中旬まで	100～200ml	キンポウゲ類に効果高い カラスノエンドウへの効果劣る 散布後の降雨で効果劣る 高温・晴天時が効果高い

※農薬の散布にあたっては、近隣にある他作物、住居などに注意してください。